

令和5年6月17日

パース補習授業校イベント「東日本大震災支援御礼川内村そばふるまい」での挨拶

東日本大震災は12年前に発生した悲しい出来事でした。パース補習授業校生徒のみなさんの多くにとっては、まだ生まれる前の出来事でした。2万人以上の方々が尊い命を落とされるか、もしくは行方不明になりました。日本が、どうすることもできない危機に直面していた時に、オーストラリアは最も強力に日本を支援してくれた国のひとつです。震災被災直後にオーストラリアから76名の緊急援助隊が派遣され、C17輸送機を物資輸送のため23回出動させてくれました。さらにジュリア・ギラード首相(当時)は最初に被災地にかけつけてくれた外国の指導者でした。今回の福島県川内村からの代表団は、そうした支援に対する感謝の気持ちを少しでも伝えたいとの想いで来訪されています。遠路はるばる来訪されたミッションの皆様には御礼を申し上げたいと思います。

パース補習授業校は、東日本大震災後10年間欠かさず3月11日に追悼行事を行い、寄付で集めた義捐金を被災地におくり続けて頂きました。そうした学校への御礼の気持ちもかねて、川内村の名物である手打ちそばを食べてもらいたいと今回パースを訪問されています。また、福島県では、原子力発電所の事故も発生したため、川内

村も一時は全面的非難を余儀なくされるという二重に辛い経験もされました。ゆえに、未来にむけて新しいエネルギーについて考える機会にもしようとの趣旨で、トヨタオーストラリア社の協力により、世界的にも珍しい水素キッチンカーが本日提供されています。熱いハートの持ち主である神埜副社長に対し、心より感謝します。支援への感謝の念、人のつながりを大切な縁として、未来にむけて新しいエネルギーについて考えるという意義のあるイベントを、どうぞみなさん楽しんで下さい。

在バース日本国総領事内藤康司